



EventFocus

「OTOTEN2018」



オープニングセレモニーでのテープカット



一般社団法人日本オーディオ協会、会長校條 亮治氏と新会長に就任予定の小川理子氏



NHK 放送技術研究所、副所長 今井享氏による基調講演。



各ブースでは試聴会が繰り広げられた。

「OTOTEN2018」は、6月16・17日の2日間「国際フォーラム」で開催された。

一般社団法人日本オーディオ協会、会長校條 亮治氏は、挨拶の中で次のように語った。

この季節だけに先ず先ずの天候ではあったと思います。今年は「ハイレゾ・オーディオ」導入4年を経たこと、新会場での2年目という事で開催に際し、幾つかの点に注力させて頂きました。

第一点は「コンテンツ」の重要性に視点を置いたことです。「ハイレゾ・オーディオ」導入後、益々オーディオの「コンテンツ」が必要であることを痛切に考え、協会自ら「リ・ファレンス音源」の開発を行い、徹底して“よい音”追及のため多くの企画を提起いたしました。フォーマットの違いの試聴を含め「アナログ」の復権もあり、「LPレコード祭り」等、今旬のイベントも提案しました。これらはビギナー・若年層からシニア・マニア層まで納得頂けたものと考えます。

第二点は「技術開発と継承」です。昨年に続き、オーディオ協会ならではの「ハイレゾ・ライブビューイング」等の技術実験と技術セミナーも取り入れお客様は勿論の事、企業関係者への提起もできたものと考えます。

第三点はやはりオーディオの楽しさを訴え、新規顧客開発につなげることでした。特に本年12月1日日本放送が始まるNHKの8K超高精細映像と22.2Ch超臨場感音声の体験と解説公開、また少し大人の感じがする「ミニライブ&トークセッション」、「空くじなしのスタンプラリー」など楽しさの演出の中にも良い音の追及に注力し、何時ものスマホ試聴とは一味違った企画を提案しました。

そして昨年より「会場」、「時期」、「ターゲット拡大」等2年目になる「国際フォーラム」での開催の検証です。以上、新たな試みを視点に開催しました。最終的分析結果は「事前登録」、「会場アンケート」、「出口調査」などのマーケティング分析を待たねばなりません。が、飽くなき改革に向け来年も開催する予定です。と締めくくった。

来場者数：2日間合計人数17,000人(推計)
＜前回：13,000人＞

また、平成30年6月22日(金)に開催された総会において、役員交代がなされた。新会長挨拶を紹介する。

「日本オーディオ協会・会長就任ご挨拶」

以下は、一般社団法人日本オーディオ協会会長 小川理子氏の挨拶。

平素は格別のお引き立てを賜り厚く御礼を申し上げます。そして、つい先週終わりました「OTOTEN2018」では多大なるご協力を賜り、お陰様で昨年比30%増の17,000名という多くの方々に来ていただきました。熱心な音楽ファン、オーディオファンの皆様にはご満足頂けたと思いますが、慢心することなく真の目標に向かってさらなる努力をする所存ですので変わらぬご支援をお願い申し上げます。

さて、この度、はからずも伝統ある日本オーディオ協会の会長を拝命いたしました。

日本オーディオ協会の歴史と伝統は、数多くの先達の多大なるご尽力と、オーディオ業界を支えてくださった関係者の皆様、オーディオ文化を愛して下さった音楽ファンの皆様の、ご支援、ご協力のもとに、築かれてまいりました。

また、良い音に対する飽くなき探求によって、多様な技術資産が蓄積され、高い完成度をもって開花したアナログ、ハイファイの時代においても、劇的に変革を遂げたデジタル化、ネットワーク化においても、業界一丸となって取り組んでまいりました。

つまり、その時代の最も先進的な技術開発に情熱をもって挑戦し続けてきた歴史といえましょう。今後もこの思いを引き継ぎ、良い音で音楽に感動する体験を、一人でも多くの方々にお届けし、未来に向かって楽しい音楽体験を創造してまいりたいと思います。

一方、技術進化とライフスタイルの変化は「音楽試聴スタイル」を大きく変えてきました。特に、昨今の世界はAIやロボティクスが常識になり超速で変化しています。私達オーディオの世界も平穩でいられるはずありません。既にスマートスピーカーなどIT機器なのかオーディオジャンルなのか線引きが難しい次世代商品が押し寄せています。

日本オーディオ協会は「ハイレゾ・オーディオ」導入以来、既に4年が経ちました。

さらに「新たなオーディオの世界」をこれらの流れに遅れることなく提案していきたいです。日本らしいきめ細かさや、本質を見失わず、人々の幸せな暮らしを彩るオーディオを探索してまいります。

オーディオの世界は大変奥深いものであり、私自身の理解不足や力不足の点など至らぬことが多いと思いますが前任会長と変わらぬご指導とご鞭撻をお願い申し上げます。会長就任のご挨拶とさせていただきます。

[PrivateShow2018] アストロデザイン



アストロデザインは、「PrivateShow2018」を東京会場、アストロデザイン本社ビル 2018/6/14・15日に開催した。また、大阪会場（グランフロント大阪 ナレッジシアター）では7/12・13の2日間開催される。

●出展製品紹介

○INSIGHT LASER 8K Imaging by ASTRO

昨年のInterBEEでお披露目し、大きな話題を集めた8Kプロジェクター。

今回は、このプロジェクターを2台使って8K 3D映像を上映した。

コンテンツは、NHKメディアテクノロジー（敬称略）とNHKエンタープライズによるプロジェクト「8K:VR」シリーズより。

また、弊社制作の8K120p映像も上映。
・高輝度レーザー使用（25,000 Lumens）
・3-Chip+Laser方式

※本製品は、アストロデザイン、台湾Delta Electronics社及び同社グループ傘下の英Digital Projection社の3社共同プロジェクトにより開発しました。

○8Kビデオサーバー【NEW】

・SR-8428：8K 240pの4時間連続ループ収録と同時再生に対応
・SR-8438：8K 60pの8時間連続ループ収録と同時再生に対応
・Grass Valley HQX Codecを搭載、高画質で長時間の収録を実現

○8K60p非圧縮動画再生装置【技術展示】
8K60p RGB 12bitの非圧縮動画再生、U-SDI出力に対応

○4Kインサータ HD-1679【NEW】
12G-SDIスーパー最大8ch対応4Kインサータ、満を持してリリース。

○その他、8K撮影・編集・制作ソリューション、MMT/TSソリューション、4K/HD放送ソリューションを展示。

●セミナー紹介

・セミナーA「メ〜テレにおける8Kの取り組み」

講師：名古屋テレビ放送株式会社 技術局 技術戦略部長 村田 実 様6/14・15

放送を取り巻く環境が目まぐるしく変化中、「次世代放送の先進局」を目指し、様々なことに積極的に取り組む名古屋テレビ放送。これまでの8Kへの取り組みを紹介するとともに、今後の取り組みについて。

・セミナーB「8KとHPCが実現する深層学習による超解像」

講師：アストロデザイン

株式会社 開発部 大澤 政寛 6/14・15

大規模なGPU群による高い計算能力と情報処理帯域を持つHPC（High Performance Computing）。その活用事例として、今年のNABで大反響の「深層学習（Deep Learning）による超解像」の開発秘話を、同社名物エンジニアが話す。

プライベートショーの前日、複数の観察法で同時観察可能とするレーザー走査型顕微鏡「LaSCOPE LM-9001」、(発売日2018年7月受注開始)が発表された。

アストロデザイン株式会社（本社：東京都大田区 代表取締役社長：鈴木 茂昭）は、顕微鏡の歴史に新たなページを加える画期的なレーザー走査型顕微鏡「LaSCOPE LM-9001」を発表する。同時同一ポイントからの明視野・位相・偏光などの情報をリアルタイムに観察可能で、独自の開口拡張技術と高速デジタル信号処理技術により無染色透過超解像を実現した。

製品のポイント

◎複数手法（透過/反射明視野、透過位相、透過偏光）の同時観察を実現

従来の光学顕微鏡では不可能だった複数の顕微手法による同時同一ポイント観察を每秒15フレームで実現。

複数の顕微手法を同時観察できるため新たな知見が得られる可能性がある。

◎走査照明系と非結像検出光学系による検出



レーザー走査型顕微鏡「LaSCOPE LM-9001」
アストロデザイン株式会社代表取締役社長：鈴木 茂昭氏（中央）

原理

従来の顕微鏡は結像光学系で観察しているためレンズによる制約があった。本装置は走査照明系と非結像検出光学系によりサンプル構造を電気信号に変換し、独自のデジタル信号処理により様々な機能を実現している。従来の顕微鏡では見えなかった微細な構造を無染色で観察できている。

◎独自の開口拡張技術と非染色透過型超解像を実現

非結像検出光学系により、微細な構造により発生する高次回折光を用いたNA1.2程度の水浸対物レンズと等価な解像度をNA0.95のドライ対物レンズで実現している。従来液浸対物レンズでしか得られなかった解像度をドライ対物レンズで実現、しかも無染色観察できるためサンプルの汚染がない。

◎ワンスキャンで深さ方向情報の取得

共焦点顕微鏡とは異なり試料をZ方向に移動させることなく焦点深度内の光学的距離情報を取得できるため、焦点深度内の3D超解像情報を得ることができます。

ビジネス展開

◎2018年7月より受注開始、樹脂素材や材料研究開発分野、バイオ細胞分野に向け年数十台の販売を目指します。予定価格は2,000万円から

【PrivateShow2018】リーダー電子



リーダー電子（本社・国内営業部 横浜市港北区綱島東）は、ZEN シリーズ、新製品展示と技術セミナーを開催した。

■展示会概要 波形モニターとラスタライザーの新ラインナップ“ZEN”シリーズを発表した。

ZENには、12G-SDIまでのSDI信号とIP信号に対応したハイブリッドタイプとSDI信号に特化したコンパクトタイプがあり、ワールドワイドな市場をターゲットにしている。

■基調講演

「5Gの現状と今後の展開」

■技術セミナー

セミナー1：「IPの国際的展望」

セミナー2：「目前に迫る4K/8K放送の規格/運用解説」

LV5600/LV7600は、4K/HD/SD-SDI信号およびHD/SDのIP信号に対応したハイブリッドタイプの波形モニターおよびラスタライザーである。LV5600は、AC電源が内蔵されたコンパクトな3Uの筐体に7インチタッチスクリーンディスプレイを備えた波形モニター。

LV7600は、1Uフルラックの筐体にLV5600と同じ機能を備えたラスタライザー。様々なオプションから必要な入力信号や機能を選択して、目的にあった仕様にカスタマイズできる。

◆多彩な信号入力に対応

12G-SDIまでの各種SDI信号やIP（ビデオオーバーIP）信号の観測・監視が可能です。音声信号は、SDIエンベデッド音声、IPに多重された音声、外部入力のAES/EBU、アナログ音声に対応可能。

◆優れた操作性

従来機種種の操作性を踏襲したキーボタ

ンやつまみをフロントパネルに備えつつ、USBマウスによる操作も可能。更にLV5600はタッチパネル機能搭載の7インチフルHDパネルを採用しており、LV7600はタッチパネル採用の外付けLCDをUSBケーブルにて接続することで、それぞれタッチ操作によって直感的に操作・設定が可能としている。

*全てのタッチパネル採用の外付けLCDモニターで動作を保証するものではありません。

◆SDI入力フォーマット

SD-SDI, HD-SDI, 3G-SDI, 12G-SDI シングルリンク、3G-SDI デュアルリンクおよびクワッドリンク、HD-SDI クワッドリンクに対応している。

◆IP入力フォーマット

IP信号はSMPTE ST 2022-6（非圧縮）やSMPTE 2110-20（非圧縮）における2K映像フォーマットの映像信号に対応しています。2K映像フォーマットの場合は、最大2チャンネルを1本の10Gビットイーサネットケーブルで受信できる。

Leader ZEN 新製品展示会

技術セミナー同時開催

■展示会概要 波形モニターとラスタライザーの新ラインナップ“ZEN”シリーズを発表します。
 ZENには、12G-SDIまでのSDI信号とIP信号に対応したハイブリッドタイプとSDI信号に特化したコンパクトタイプがあり、ワールドワイドな市場をターゲットにしています。
 ※展示会はご来場いただく限りです。

■基調講演 基調中込制
「5Gの現状と今後の展開」
 ※基調講演・セミナーの開催やお申込みは、弊社WEBサイトからお問い合わせください。
 ※セミナーは、都合により変更する場合があります。

■技術セミナー 基調中込制
セミナー1
「IPの国際的展望」
セミナー2
「目前に迫る4K/8K放送の規格/運用解説」

■展示会場 シタカスタジオ横浜天王町
 開催日：2018年6月13日（水）、14日（木） 開催時間：10:00～17:30（最終日は17:00）
■大会会場 シタカスタジオ横浜天王町
 開催日：2018年6月13日（水）、17日（木） 開催時間：10:00～17:30（最終日は16:30）

リーダー電子株式会社
 〒222-0202 神奈川県横浜市港北区綱島東1-1-1
 TEL:045(841-21)32(代) FAX:045(841-21)52
 E-MAIL:info@www.leader-elec.co.jp